



海防集
下

中村俊定文庫
文庫 18
139
3





泊船集卷之五

芭蕉菴拾遺稿

維陽 風國撰次

久々入部

し

島田塚本氏に御事有

馬のハシ



邦 小菫の穂
許之亭
人々 神々

篠のめを在る
さる小のこ
私ひあありの
ほさるるか

島田乃富

宿 武江の宿
名 乃 宿
宿 乃 宿
宿 乃 宿

不二

一尾根ハ

乃 宿

立中道行や 船の船綱 取付て

魚屋琴

山城ハ 舟手ハ 駕籠ハ 時雨ハ

田里子 居き

田乃 宿

宿

旅人ト 旅 宿

宿

雨乃 宿

廿 宿

旅人ト 宿

宿

乃 宿

宿

膳所

こゝに世々河氏の千五百と
書きてある

深川 三ノ橋 甲一ノりし

福宮や掛くさるるの止

福宮やしるは乃其のたふ

大佛 徳田のりし

福宮やいり大佛入様

福宮や聖の僧入の良

竹馬渡

たいてハチのりし

福宮や幸。菴。下。み。あ。

深川 八貫 又ハ今畧

米のりし 雪乃袋やなご

深川 八貫 頭巾

酒飲ハる。愛。し。お。の

對友人

君ゆゑに。愛。ま。り。た。り。た。り

白下

免し角もまじりて雪なり
枯角也

ひいふにまじりて雪なり
あま

熱田御造宮

こまむすき 鏡も清
雪のまじ

まじりて雪なり
紙子な

あま

雪
雪

あま

雪のまじりて雪なり
谷月

けの尾列も中あま
あま

いさかき
雪見もこま

山中子共あま

雪乃中も免乃皮のまじり

雪
雪

雪
雪

流下

信濃路

右集抄七卷

雪ふるや穂屋の薄尺

不やの薄尺

夜着ハ重し 吳天ノ雪

好句ハ延室乃比乃吟

十月や

六

乃身ハ休 糸

道乃記

あひるも後 程向乃又

巻頭

閑や頼

三ノ下
三ノ上
三ノ中
三ノ下
三ノ上
三ノ中
三ノ下
三ノ上
三ノ中
三ノ下

十
右
三ノ下
三ノ上
三ノ中
三ノ下
三ノ上
三ノ中
三ノ下

三ノ下
三ノ上
三ノ中
三ノ下
三ノ上
三ノ中
三ノ下
三ノ上
三ノ中
三ノ下

三ノ耕田別

三ノ下
三ノ上
三ノ中
三ノ下
三ノ上
三ノ中
三ノ下
三ノ上
三ノ中
三ノ下

冬

三ノ下
三ノ上
三ノ中
三ノ下
三ノ上
三ノ中
三ノ下
三ノ上
三ノ中
三ノ下

三ノ下
三ノ上
三ノ中
三ノ下
三ノ上
三ノ中
三ノ下
三ノ上
三ノ中
三ノ下

三ノ下
三ノ上
三ノ中
三ノ下
三ノ上
三ノ中
三ノ下
三ノ上
三ノ中
三ノ下

三ノ下
三ノ上
三ノ中
三ノ下
三ノ上
三ノ中
三ノ下
三ノ上
三ノ中
三ノ下

三ノ下

千川亭

おほいほ吹さるるや
多の龍り

贈酒堂

詞書市乃卷ニん後

難波津や田の婦

文

深川冬夜乃聲

櫓乃聲波乃腹張る也

こ和乃比乃由し

落葉

あはれ

あはれ権現

神乃落葉

宮ノ秋名をさるる葉川

明照寺

百年乃氣も色もあはれ
落葉のうら

向小

おの
多の... 染...
~~~~~  
~~~~~

東護

高心... 護...
~~~~~

深川端在

振... 雁...  
~~~~~  
東護

御... 講

御... 講... 油... 乃... 亦... 亦...

大根

小坊... 乃... 亦...

埋火

大根

埋火... 乃... 影...

三
百
七
十
七

追善了

埋中しき遊や泪乃者欠る

あゝ他

あゝ他や白お障よ乃と

三何ち竹垣の

白お障よ乃と
三何ち竹垣の白お障よ乃と
三何ち竹垣の白お障よ乃と

其ほの柳

名うた

字々葉

字々葉や粉糶乃乃

大津一

三六乃と山乃本乃葉

あゝ他

霜乃竹撥

白下

乙

口切

支梁亭

口切の境乃るなごころ

柳のよやた友を以て霜乃

あられ

いこのえん——まきや電の檜乃本

報の琵琶もく軒のれを

あ〜汁

あ〜何のまき乃る汁

汁——三つ入白し

熱田子し

あまのまぬ熱のし

西行の熱のし

一露のこほまぬまき乃る汁

山家集
あまのまぬ熱のし
西行の熱のし
山家集の熱のし
一露のこほまぬまき乃る汁

治下

白も響

白も響の山をめぐりて

山をめぐりて

山をめぐりて

鷹ひくはは

鷹

鷹ひくはは

麦をめぐりて

麦をめぐりて

家や田村

山をめぐりて

山をめぐりて

山をめぐりて

山をめぐりて

山をめぐりて

山をめぐりて

訪松水紀

山をめぐりて

山をめぐりて

山をめぐりて

山をめぐりて

山をめぐりて

山をめぐりて

山をめぐりて

山をめぐりて

其後越人... 律規句

三人... 今... 婦... の

霜

人乃帯... の

とわ... 乃... の

日向... 乃... の

あ... 乃... の

や... の

葛... の霜

お... の

河... の

霜... の

花... の

霜... の

葉... の

探... の

防... の

音... の

赤... の

内... の

五十一

大遍菴乃毛眉圓士草

若をやりしるはきしきしきし
まてらん事なまきしめ
はかすその日をまきしきし
一帯乃雲相と降ぬ今日ハ高
ひめりめあふまきしきし
まきし

其うらたも枯す入世の

鳳来寺

おまひしけり新あし猿なま

あつうの霜月初の日

深川の田中

の

都あし神も猿おし目数え

まきしきし

向

五十二

長嘯の聲もあゝの津波

納言の聲もあゝの津波

——

おのゝこゝろの聲もあゝの津波

おのゝこゝろの聲もあゝの津波

——

おのゝこゝろの聲もあゝの津波

路通行脚。五巻一具。難波。置ん。おのゝこゝろの聲もあゝの津波。湖南へ送る。おのゝこゝろの聲もあゝの津波。

おのゝこゝろの聲もあゝの津波

今畧々。小文庫。曲水連。おのゝこゝろの聲もあゝの津波。

おのゝこゝろの聲もあゝの津波

右下

標をのびたつ欄のたふさ

旅

標をまいた杉の4の5のよも

旅をたつや浮きか

題

〜難しきや乃樓記の中

月を乃男の針をさし入

馬ほ

物言論

この句野りも

倉山へ空を霜の

氷若く偃気も

右の句ハ次讀ルハ

候しのゆ旅の

酒

毛羽年一戸のし 鴨のし

面白ー雨のちん冬のは

芥花やま井輪乃田井の

冬うれの福の

冬うれの福の *冬うれの福の*

とてれ

月白な師走ハ子路の夜えうも

うれ鼻師走乃海乃 カイツブリ

何さハ師走のし

こゝ登り

めう

引別乃底

ナカ

遠くよあつゝあつあつあつあつ
月夜も乃さささささささ
比翼入止まへまじまじ
留るるるるるるるるるる
然るもさささささささ
師もさささささささ
こころのさささささささ
昔もさささささささ

昔もさささささささ
有明もさささささささ
こすれま茶飯も摘み
餅のな

病中乃吟

猿もあつゝあつあつあつあつ
死もあつゝあつあつあつあつ

白下

雜句

あさよきまを 離れしり

うきまを

この路通、わがわがりのあつ

内書と書きしぬ

杖のた

うきまを杖のた

うきまを

雪の 斬 丸腸

あせ月の 鯉

凡百廿三句

物ノ凡百廿三句 (貼紙)

即此集末巻の末

あさよきまを 離れしり
うきまを
この路通、わがわがりのあつ
内書と書きしぬ
杖のた
うきまを杖のた
うきまを

あせ月の 鯉

洵船集不美と云々

川柳よりくわもあめり

さるるれは佳き一色はい

て遊加とまぬあめり

しとめも

よす

洛風園撰

朱の
作は
上
の

しとめよしなはしあき
若菜つなれ 芭蕉

畑の頭巾一呼ちる若菜つと 其角

若菜つと敷おやるきん儀 去来

若菜つと一物さるのま 物鳥 野坡

踏らる雪の筋りハハハ 物鳥 惟乾

おまじふ方とさる髪女の若菜つと 凡心

若菜つとさるハハハハハ 物鳥 越人

春

山ノ下

梅

おれしよきぬあそぬよ梅梅川川ちれちれ 惟成

白守ハくつふ梅乃く梅 林紅

ふましひさひさぬよ梅の巻梅 西六

くお月おれしよきぬあそぬよ梅の巻 凡成

梅平乃きもくしおし小僧小僧 乃智

ふちちぬ梅本もぬもひぬり梅乃巻梅 全量羅

~~~~~

~~~~~ 其商

~~~~~ 其商

~~~~~ 其商

~~~~~ 其商

~~~~~ 其商

~~~~~ 其商

山ノ下



如し三十一

柳 ハナリ 柳 ハナリ 柳 ハナリ 柳 ハナリ

柳

ふんほり ハナリ 柳 ハナリ 柳 ハナリ 柳 ハナリ

系柳 ハナリ 柳 ハナリ 柳 ハナリ 柳 ハナリ

柳 ハナリ 柳 ハナリ 柳 ハナリ 柳 ハナリ

柳 ハナリ 柳 ハナリ 柳 ハナリ 柳 ハナリ

大 ハナリ 柳 ハナリ 柳 ハナリ 柳 ハナリ

世 ハナリ 柳 ハナリ 柳 ハナリ 柳 ハナリ

柳 ハナリ 柳 ハナリ 柳 ハナリ 柳 ハナリ

柳 ハナリ 柳 ハナリ 柳 ハナリ 柳 ハナリ

柳 ハナリ 柳 ハナリ 柳 ハナリ 柳 ハナリ

白下



油

まきこひ 雁とちゆく 野水  
しるる ちるる 何可 ちるる

毛

あささうり 大脳中よ 杉風  
あ乃え入 天狗と今ハ 去来

あささうり 大脳中よ 杉風  
あ乃え入 天狗と今ハ 去来

あささうり 大脳中よ 杉風  
あ乃え入 天狗と今ハ 去来

あささうり 大脳中よ 杉風  
あ乃え入 天狗と今ハ 去来

あささうり 大脳中よ 杉風  
あ乃え入 天狗と今ハ 去来

あささうり 大脳中よ 杉風  
あ乃え入 天狗と今ハ 去来

あささうり 大脳中よ 杉風  
あ乃え入 天狗と今ハ 去来

あささうり 大脳中よ 杉風  
あ乃え入 天狗と今ハ 去来

あささうり 大脳中よ 杉風  
あ乃え入 天狗と今ハ 去来

あささうり 大脳中よ 杉風  
あ乃え入 天狗と今ハ 去来

出



三十一

さうりこももさや薬着乃紙乃間 去ま

羅

ねうてやひしよる雉子乃身なり <sup>イカ</sup> 万平

さる乃まもまのあしこ開 <sup>ミ</sup> 圓解

うら <sup>籠</sup> 助 <sup>イカ</sup> 凡か

いあ <sup>イカ</sup> 匠之

いあ <sup>イカ</sup> 匠之



おちる月

おちる月

おちる月

おちる月 <sup>イカ</sup> 匠之

おちる月

おちる月 <sup>イカ</sup> 匠之

おちる月

おちる月 <sup>イカ</sup> 匠之

白下

白下

三十一



なまのりあやと

あま二日田  
紫道

青園もほろりあやも

唯此

ひし猫のりあや

うきんくらサキ

戸障りあやあや

水孔

あやもあやあや

あやあや

あやあやあやあや

あやあや

石のりあやあや

机下



重三

あやあやあやあや

あやあやあやあや

あやあやあやあや

ひ

あやあやあやあや

白下

和泉







浪化

る

東方列今北き河

芭蕉

早一苗もつらりり里

日数

部

夏

都乃子知ん 玉

飛く都乃子知ん 玉

都乃子知ん 玉

都乃子知ん 玉

都乃子知ん 玉

浪化

船さき乃のく程なる

船さき乃のく程なる

浪化

浪化



浪化

の歌んちのふさふさの月夜に 朱按

灌佛一

灌佛や一まるとも一は平持 汎行

るる

くびもくし 鶴入むも 浪化

ゆしん ちん 浪化

内路をかり 今さらや 浪化 慎女

作せし書懐

おろしり 浪化 浪化

いよん 浪化 浪化

川一 浪化 浪化

ま 浪化 浪化

青路身や 浪化 浪化

浪化

浪化



~~~~~

~~~~~  
路律

~~~~~  
國乃名子と牡丹のめ

~~~~~

~~~~~  
曲風

~~~~~  
~~~~~

~~~~~

~~~~~  
~~~~~

~~~~~

~~~~~  
冷酒よとて類よとて冬かり  
為有

~~~~~

~~~~~  
小坊よとて類よとて冬かり  
眼山

~~~~~  
子よとて類よとて冬かり
白雲

~~~~~  
蝶よとて類よとて冬かり  
野波



田邊 八ノノ

大

田邊 八ノノ

本田 家ノ

本郡

本田 家ノ

猪ノ見ノ

路健

高橋

卯ノ花ノ

曾良

田邊

田邊ノ

八幡

田邊ノ

田邊ノ

田邊ノ

田邊



ちまよ

懐

橘

ふまき

るま

夏畑

ねらちやて鬼乃ははしくちまよが

為有

日限と来ぬどくま九乃あゆむ

下柄

捕や 重よさうはく埴の陰

み札

る桃とるまを乃そくやるまき

如行

み川そまというくのあまの

可曉

いろくの作とちり集まの跡

玄来

くまよさうてまよや作の跡

玄来

あつさ

石とまよと服よひるあつさな

玄来

雞乃砂よまよまよさあつさ

風心

ゆと

途







...

...

そのおはなはあはれ

游刀

...

...

素堂



秋

かひきりし

〇 ぬきそひり人とおうし 如雲 菖蕉

秋のや鷹乃と毛 浪化

おしりもちさうやうし 長井 曾町

あまうけ

秋凡や羽織もまゝ 小腸指 小枝

釣もやうやう 秋の凡 正木乃

く〜 鴛の籠も 秋の凡 中

さよふる 金剛山も 秋の凡 舎

初秋乃らむ

三の月の秋を 屋敷や野の上 凡

秋



七

秋もまじくちかしの夜乃の也

秋 雉

まぬしむや船よハあつ板

風玉

蜻蛉 蜻蛉 鴨 栗の雀 虫

林月雁 藤 菊 萩

白くり丸久ーーーの燈の流 白

ちー丸凡ましまるるーーーの 自性

け角ふ引倒さ小まむの鳴 野紅

蜻蛉やリもまがる穂と系 頭水

蜻蛉乃体さかわま 思信

里のまハ本林し晴る 柿紅葉 東推

早稲の穂もいりまろく 湖倉

物鶴乃もまろく 可成

物鶴乃や糸まろく 十文

こままの栗穂の雀あし 重行



舟のいさめを乗入し

中島

如氷

くさくさ

如氷

いさめ

如氷

白く

如氷

肥後

舞はるる

舞はるる

舞はるる

はるる

梅の尾を

知るる

はるる

中島も落つ

はるる

何事も

粟乃穂



霧

ほろりゆく霧のつらさ  
つらさゆきゆく霧のつらさ  
霧の中魚住  
霧の舟  
霧の舟

霧の舟

女子繪りて雲平にさし霧の生

八朝よるや十一もふまゝ霧の

月

特遠後の天有はる

○ 霧の舟も羽運よるも霧の月 芭蕉

猶月さきゆく霧の舟のつらさ  
霧の舟

川をゆく霧の舟のつらさ  
霧の舟

夕月や枝を揺る霧の舟のつらさ  
霧の舟

くさの月霞を吹く霧の舟のつらさ  
霧の舟

秋色



〜〜たのり

〜〜のり  
主芳

たのり  
たのり

たのり

たのり

月夜もさくさく  
風玉

10月  
ち月

かこ入いあり

ふふ  
千心

〜〜ま姫路

月夜ねる  
竹

海の中

〜〜  
後此

鳥落〜  
は外は橋

名〜川  
生草

〜〜  
〜〜

目〜  
生草



山

山

よ

○ 馬のあや 大なるはくくけり 芭蕉

羊舌の櫛

田方好方

打ぬし 雁のあや 雁のあや

雁鳴し 雁のあや 雁のあや 出芽

山

風車も時をよめる 山

海より 山

山

あや 山

山

冬

山

山



酒のちりりんとするは 野の

さか鹿乃のさか鹿乃の 著書

金剛のさか鹿乃

志のさか鹿乃のさか鹿乃の 風化

水はちあはれさか鹿乃の 中女

雪

カササギのさか鹿乃のさか鹿乃の 雪

さか鹿乃のさか鹿乃のさか鹿乃の 大子

さか鹿乃のさか鹿乃のさか鹿乃の 沙剛

奥のさか鹿乃のさか鹿乃の

さか鹿乃のさか鹿乃のさか鹿乃の 惟此

さか鹿乃のさか鹿乃のさか鹿乃の 風化

さか鹿乃のさか鹿乃のさか鹿乃の 沙剛

さか鹿乃のさか鹿乃のさか鹿乃の 浪化

さか鹿乃のさか鹿乃のさか鹿乃の 菅角

さか鹿乃のさか鹿乃のさか鹿乃の



浪下

浪下

えい、あゝ

あまの

あまの

あまの

えい、水や路の

あまの

あまの

えい、水や路の

あまの

えい、水や路の

あまの

えい、水や路の

あまの

えい、水や路の

あまの

えい、水や路の

あまの

あまの

あまの

あまの

えい、水や路の

あまの

えい、水や路の

あまの

えい、水や路の

あまの

えい、水や路の

あまの

えい、水や路の

あまの

浪下

浪下



題云々

籠幅や氷乃中ねいさりき

其角

茶乃是いんごうもゆる孤舟

いんご珠  
頭水

林野しよし目よもつとれは小雲

いんご田  
約亭

橋くや暮いんごもゆるか

孤屋

夕々羊叶都たのちのち

夕々

帆竹

方ねり

ひらりてむさしうのちねり 二年

五年の周

あゆししあひるあひるやちねり 志康

いんごのしんやちねり 鳴海 知りて

今猿とてぬはさひちねり 風を

いんご

いんご

志康



ひやうはんよ

ひやうはんよちうきさくつ飾り 有

きりぎりすのひびくや飾り 有

仙甚全

栲町の鳴りまよふ年の餅 柳調

ひやうはんよちうきさくつ飾り 有

きりぎりすのひびくや飾り 有

ひやうはんよちうきさくつ飾り

きりぎりすのひびくや飾り

きりぎりすのひびくや飾り

○ 西のけり奉ししあきさくつ飾り 芭蕉

あきさくつ飾り

入あきさくつ飾り

陽あきさくつ飾り

白下

あき



五月乃青砂（白田）唐乃亂（白田）終涼

蒼宮土下（白田）烟々（白田）や毛（白田）滑白（白田）

くま（白田）舟（白田）なほ（白田）くま（白田）くま（白田）くま（白田）朱托（白田）

了（白田）雨（白田）あられ（白田）く（白田）く（白田）五月晴（白田）北人（白田）

露（白田）く（白田）く（白田）く（白田）く（白田）元灌（白田）

又（白田）く（白田）く（白田）く（白田）く（白田）温故（白田）

女（白田）希（白田）毛（白田）ま（白田）く（白田）く（白田）比（白田）比（白田）呂風（白田）

若月也（白田）原（白田）子（白田）ま（白田）く（白田）く（白田）若人（白田）

若月乃青（白田）白（白田）名（白田）山（白田）乃（白田）井（白田）

一（白田）味（白田）く（白田）く（白田）く（白田）水札（白田）

徳（白田）ま（白田）く（白田）く（白田）く（白田）野（白田）系（白田）曲（白田）風（白田）

蜻蛉乃体（白田）く（白田）く（白田）く（白田）一（白田）井（白田）乃（白田）思（白田）信（白田）

飯（白田）時（白田）と（白田）ね（白田）く（白田）く（白田）く（白田）や（白田）窺（白田）船（白田）呼（白田）丁（白田）

初（白田）あ（白田）あ（白田）く（白田）く（白田）く（白田）く（白田）福（白田）の（白田）路（白田）健（白田）

扶（白田）風（白田）也（白田）痛（白田）也（白田）甚（白田）煎（白田）乃（白田）ひ（白田）く（白田）く（白田）野（白田）乃（白田）

新（白田）乃（白田）人（白田）く（白田）く（白田）く（白田）く（白田）乃（白田）人（白田）乃（白田）人（白田）乃（白田）人（白田）



ちくちくと肥ふるもや風の度美崎ノサキ助産

ひあまやぬはつとと久ノ田芝角

一重を叩くるりさうあまのこ馬の陰あまのこ頸水

鳥飛きたつまつくあまのこ中を野郎あまのこ眠山

阿の叔おめし切多の竹あまのこの雪助産

あまのこあまのこ子姪わたりしあまのこ柳あまのこ十太

あまのこあまのこやまの海あまのこにされくあまのこ砂あまのこの

長崎より来た去来子書中

小倉よりしちたかひ

あまのこあまのこの舟躍り

あまのこあまのこの漁夫乃女舟躍ハるをあまのこ

あまのこあまのこハ黒崎沙剛あまのこ

あまのこあまのこの田舎付顔や浦の宿

あまのこあまのこの長きあまのこの多きあまのこの

あまのこあまのこの今ハ孫子也あまのこ莫きあまのこあり

あまのこあまのこの同族詠務大明神あまのこよあまのこの

あまのこあまのこの貴もあまのこのあまあまのこの月



源下

四十一

田上りりふふあひのし

ふあひのし魚喰りふ止り早稲の飯

是ハ漁村乃のさみ路し

櫛乃本乃く包もさむるや秋の

田上乃若月

若月やあまのふよせもる様

ふあひのしあひのしあひのし

八月可也

志事

風をま

元禄十一戊寅年

十一月吉日

京寺町二條上ノ所

井筒屋庄兵衛板



